

老舗シャツ

金沢の金港堂えり着脱式「花子とアン」に

朝ドラ彩る

一九三二（昭和七）年創業のオーダーシャツ老舗「金港堂」（金沢市片町）

が仕立てたワイシャツが、

NHK連続テレビ小説「花子とアン」で主人公の夫らの衣装として採用され、話題となっている。えりの取り外しができるクラシックなシャツが製品化できる「老舗の技」が認められた形。三代目の宮谷隆之社長

「花子とアン」のポスターを

背に、採用された着脱できるえりや金属製ボタンを手にする宮谷隆之社長（金沢市片町）

（五）は北陸新幹線開業を念頭に「金沢ですてきなシャ

ツが作れることを、広く発信していきたい」と意気込んでいる。

番組で使われているの

は、首回りを覆うえり台の前と後を金属製ボタンで留

めてえりが着脱できるシャツ。戦前までは一般的だったが、現在はほとんど姿を消し、金港堂ではまれに注文があるという。

これらを店のブログで紹介していたところ、「花子とアン」で衣装を担当する会社から今年一月に照会があった。宮谷社長が「今でもすぐ生産でき、二週間後に納品できる」と答える

と、採用が決まったという。男優の着ていたシャツが送られてきて採寸。いずれも白無地のシャツ七枚、えり七点を納品した。

している。えり台だけで、本来のえりがないままの姿の鈴木さんも登場したという。

番組では、「花子」の夫役の鈴木亮平さん、出版社の編集長役の藤本隆宏さんらが、えり先が前に折れ、翼のように見えるウィングカラーを付けて着こなしている。

（沢井秀和）

